

## メッセージ: 巨人との戦い

OICの皆様おはようございます。  
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

今日、私たちは神様に選ばれた民、イスラエルの民の歴史が、約束の地カナンへとさらに広がって行くのを見ます。私は前回のメッセージを次の言葉で締めくくりました。  
私たちクリスチャンは、アブラハムが空の見える星を見つめながら神様の心に見た、きらめく星なのです。私たちがイエス様の御名によって祈るたびに、神様はモーセやヨシュアにされたように、私たちに答えようと行動されます。イエス様の御名は、今ここで最高に価値があります。私たちはただ、地上のイエス様に栄光を帰すために、不可能なことでさえも神様に求めていることに気づきます。

私たちを偉大にするために神様がいかにご自身を低くしておられるかを考えれば、生と死の出来事における神様の判断に疑問を抱く前に、私たちは二度考えるかもしれません。神様は、人類が偽りの神々、特に人間の自分自身を崇拝していた歴史上の多くの場所で、人類を滅ぼすことができました。もしそうであったとしても、神様は聖なるお方であり、罪のないお方です。神様は、御子イエス様との関係を通して神様に誉れを与えるあらゆる部族や国民から多くの人々を救うことを選ばれます。〈ヨハネの手紙Ⅰ 4章8節〉で聖書は言っています。

〈ヨハネの手紙Ⅰ 4章8節〉

反対に、愛のない人に神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

愛であられる唯一のお方なる神様だけが、いつ呪い、いつ祝福し、いつ憐れみを与えられるかを選択するそのような権限を持つべきであることを覚えていなければなりません。

今日は、神様の命令への故意の不従順に対する神様の裁きについて読みましょう。また、私たちが見たり感じたりしている巨人が、私たちの神様によってどのように打ち負かされるかを示します。主なる神様はヨシュアの言葉を通して、イスラエルの兵士たちに、エリコからあらゆる「戦利品」や物資を自分自身のために奪ってはならないとはっきりと警告されました。ヨシュアは主なる神様からの指示を〈ヨシュア記6章17節-19節〉に繰り返しました。

〈ヨシュア記6章17節-19節〉

**17** 住民はみな滅ぼせ。だが娼婦ラハブと、その家の中の者たちは助けなさい。ラハブはわれわれの偵察者をかくまってくれたからだ。

**18** 戦利品には手を出さず、すべて滅ぼし尽くしなさい。もしこれに背けば、イスラエル全体を災いが襲うだろう。

**19** ただし、金、銀、および青銅や鉄の器具はみな、主にささげ、主の宝物倉に納めなさい。」

そして私たちは先週のメッセージ〈ヨシュア記7章1節〉を読みます。

〈ヨシュア記7章1節〉

**7-1** しかし、イスラエル人の中に罪が潜んでいました。主にささげるもの以外は滅ぼし尽くせというヨシュアの命令が、実は守られていなかったのです。ユダ族のカルミの子で、祖父はザブデイ、曾祖父がゼラフであるアカンが、戦利品の一部をふところに入れていました。そのために、主の激しい怒りがイスラエルの民に下ったのです。

さて、イスラエルがアイで敗れた同じ日、神様はアカンのこの罪に対して聖なる怒りを爆発させます。

<ヨシュア記 7 章 10 節-12 節>を読みます。

<ヨシュア記 7 章 10 節-12 節>

7.10・11 それに対して、主は答えました。「顔を上げて立ちなさい。イスラエルは罪を犯したのだ。わたしの命令に背いて、取ってはならないと命じた戦利品を盗んだ。盗んだだけではない。偽って、自分の持ち物の中に隠している。

12 だからあなたがたは敗れた。これで敗北の原因がわかっただろう。今ではイスラエルのほうが滅ぼされる運命にある。その罪が完全に取り除かれなければ、もう、わたしはあなたがたと共に歩まない。

主なる神様は、「彼らは盗んだ」と「彼ら」という言葉を使っていることに注目してください。これは、アカンのほかにも関与していたことを暗示または示しています。それは彼の家族のうちの他の人かもしれないし、友人かもしれません。しかし、主なる神様はアカンの家族だけを選ばれました。

私たちは<ヨシュア記 7 章 14 節>を読みます。

<ヨシュア記 7 章 14 節>

14 明朝、あなたがたは部族ごとに進み出なさい。主が犯人のいる部族を示されるだろう。その部族は氏族ごとに分かれて進み出なさい。主が犯人のいる氏族を示してくださるだろう。次に、その氏族は家族ごとに進み出なさい。そして、犯人のいる家族は、一人ずつ前へ出るのだ。

### 罪の代償-常に死

イエス様の犠牲の死によって罪が洗い流された新約聖書時代では、私たちは聖なる神様に対する罪の厳しさを忘れてしまうかもしれません。神様は罪を見るに耐えられません！だから、イエス様が私たちのために罪となられたとき、永遠の過去において初めて、神様はご自身の最愛の御子から目を逸らされました！このことは、イエス様が十字架上で耐え忍んだ肉体的虐待のすべてよりも、イエス様を苦しめたと言えると思います。

イエス様の十字架より約 1100 年前、神様は預言者サムエルを通してサウル王に怒りを表されました。イスラエルの初代王サウルは、アマレク人に対する神様の明確な指示に単に従うことを拒みました。神様はサウルにあらゆるすべてのものとすべての人を破壊するよう命じました。サウル王は神様に従いませんでした。ほとんどのことを従うということは、すべてのことを従うということではありません。サウルは神様の命令を自分自身の判断で置き換えました。そしてまた、サウルは最高の羊を殺さないで生かしていると、後に主なる神様に喜ばれる犠牲の動物になるであろうと決めました。そうではありません！<サムエル記 I 15 章 20 節-22 節>で預言者サムエルがサウル王に語っています。

<サムエル記 I 15 章 20 節-22 節>

20 「私としては、お従いしたつもりです。命令どおりにいたしました。アガグ王は連れて来ましたが、ほかのアマレク人は全員殺しました。

21 たまたまいた羊や牛や戦利品の最上のものを取り分け、主にいけにえとしてささげようとしたのは、民が言いだしたことです。」

22 サムエルは言いました。「主は、いくら焼き尽くすいけにえやその他のいけにえをささげたとしても、あなたが従順でなければ、少しもお喜びにはならない。従順は、いけにえよりはるかに尊いのだ。主は、あなたが雄羊の脂肪をささげるよりも、主の御声に耳を傾けるほうをお喜びになる。

神様は、サウルの不従順に対する激しい怒りを、イスラエルでよく知られている罪という形で明らかにされました。

魔術！ {今日の注目 親愛なる OIC 教会の皆様、映画『*Wicked* (ウィキッド ふたりの魔女)』の悪にご注意ください。この映画は悪を善と呼んでいます！良い魔女なんていません！}

預言者サムエルはさらにサウル王を厳しく非難します。

<サムエル記 I 15 章 23 節>

反逆は占いの罪に等しく、不従順は偶像礼拝に等しい罪なのだ。もはや主のおことばを無視したからには、主もあなたを王位から退けることだろう。」

サウル王と同じように、アカンもこの世の強い願いが神様に逆らい従わないようにしました。素早く告白したアカンへの憐れみの可能性に注目しましょう！<ヨシュア記 7 章 11 節>で主なる神様は言いました。

<ヨシュア記 7 章 (10) ・ 11 節>

7.10 ・ 11 それに対して、主は答えました。「顔を上げて立ちなさい。イスラエルは罪を犯したのだ。わたしの命令に背いて、取ってはならないと命じた戦利品を盗んだ。盗んだだけではない。偽って、自分の持ち物の中に隠している。

アカンもサウル王も、神様への忠誠心や神様との関係よりも、物質的財産による富を優先しました。しかし、アカンは神様から「罪を隠そう」としました！しかし、アカンもサウル王も、まるで神様が物言わぬ弱者であり、唯一の知恵ある神様ではないかのように扱いました。神様は常にすべてを見ることが出来ます。神様は、アカンが地下に隠した盗品を見ることができました。神様はイスラエルの陣営で羊とヤギ、そしてアマレク人の王が活着ているのを見ることができました！聖書は<歴代誌 II 16 章 9 節>で神様について述べています。

<歴代誌 II 16 章 9 節>

主はその御目で全地を見渡し、心を完全にご自分に向けている人々を探し求めておられます。そのような人々を助けるために、大きな御力を現してくださるのです。あなたはなんと愚かなことをなされたのでしょうか。これから、戦いの渦に巻き込まれることでしょう。」

神様の目はまた、人の心、特に神様の指導者たちの心の中に罪を見出します。反逆の罪はアカンの命を奪い、サウル王は王の地位を失いました。

親愛なる OIC クリスチャンの皆さん、神様の怒りを聞くと、時に不安になるかもしれません。私が説教するとき私もまたそうです。あなたもまた神様に反抗し、罪を犯すかもしれないという種のある不安感があります。あなたがもしそう感じておられるのなら、あなたは正しいところにいます。そうです。このような不安な思いは、私たちの罪深い本性の謙虚な知識に基づいています。絶望につながる恐怖ではありません。<歴代誌 II 16 章 9 節>のフレーズに注目すれば、あなたの恐れは薄れていくでしょう。

<歴代誌 II 16 章 9 節>

主はその御目で全地を見渡し、心を完全にご自分に向けている人々を探し求めておられます。そのような人々を助けるために、大きな御力を現してくださるのです。あなたはなんと愚かなことをなされたのでしょうか。これから、戦いの渦に巻き込まれることでしょう。」

もし私たちがイエス様に心を捧げ、イエス様から故意に引き離さないなら、イエス様は寒い冬の夜の暖かい火のように、私たちの心をイエス様のために保ってくださいるでしょう。神様の愛と、神様が私たちを選んでくださったことを思い出すとき、私たちの心を真実に保ってくださいる神様

の聖霊なる神様、私たちの助け主を信頼することができます。私たちの仕事は、ただ父なる神様と御子イエス様に祈りを捧げ続けることです。

私たちは<ヨシュア記7章12節>を読みます。

<ヨシュア記7章12節>

12 だからあなたがたは敗れた。これで敗北の原因がわかっただろう。今ではイスラエルのほうが滅ぼされる運命にある。その罪が完全に取除かれなければ、もう、わたしはあなたがたと共に歩まない。

今、神様はイスラエルを滅亡から救い、滅亡のために定められたものや罪人を滅ぼすための行動をイスラエルに与えています。私たちクリスチャンは、1人の人間の罪のためにイスラエル全体の滅亡を理解するのが難しいです。聖書で私の次の「小旅行」は、親愛なるOICの聖なる方に答えることです！彼女は私に、なぜ1人の人、アカンの罪のためにイスラエル全体が罰せられたのですかと尋ねました。神様の御言葉にある真実を求めている彼女に神様の祝福がありますように。

私たちは、アブラハム、イサク、ヤコブの神様が、指導者であるアブラハムとその息子たち、そして後にモーセとヨシュアと非常に個人的な関係を持っていたことを悟らなければなりません。その後、旧約聖書全体を通して、預言者やイスラエルの指導者たちと非常に個人的な関係を持っていました。聖書は、そのような個人的な関係が、ほとんどのイスラエル人、それも忠実な人々に経験されたことを示すまたは暗示するものではありません。しかし、モーセの下で、イスラエル人は皆、エジプトの奴隷状態から救う神様の力を見て、経験しました。そして、ヨルダンを渡ったイスラエルは、ヨシュアのもとで、そのような神様の力をその目で見ました。イスラエル人には言い訳ができません！

しかし、神様が地上でも天国でも、イスラエル人の忠実さに報いることを決して忘れられなかったことを私たちは確信することができます。神様とのロマンチックな関係は、神様の恋人のような存在であるイスラエル民族に集中されていました。それゆえ、祝福と審判は集団としての社会に対するものでした。しかしまだ、例えば、私たちはモーセによって遣わされた12人のスパイが不信仰であったためにイスラエルに下された審判に、個人的な行動を見ます。これはイスラエルがエジプトを出て、初めて約束の地であるカナンに近づいたときのことでした。

## 巨人への恐怖

聖書は<民数記13章27節>に言っています。

<民数記13章27節-28節>

27 彼らの報告は次のとおりです。「ただいま戻りました。カナンは実にすばらしい国です。まさに、乳とみつが流れる国でした。その証拠に、持ち帰ったくだものをごらんください。

28 しかし残念なことに、住民は強く、町々は非常に大きく、城壁を巡らしてあります。そのうえ、アナクの子孫の巨人族がいるのです。

さて、このイスラエルのスパイたちは、人の力しか見ておらず、強力なエジプト人から自分たちを救い出してくださった主なる神様の力をすぐに忘れてしまったことに注目してください。神様はイスラエルを守るために、全軍でさえ紅海に沈めました。しかし、少数のイスラエル人は、<民数記13章30節>にあるように、自分たちの神様を覚えていました。

<民数記13章30節>

この報告に、人々はざわつきました。しかし、カレブはモーセの前でみなを静めると、きっぱり言いました。「われわれは、すぐ攻め上ってカナンを占領しよう。大丈夫、やれば必ずできる。」

しかし、信仰ではなく巨人への恐怖がその日を制し、勝ち残りました！

<民数記 13 章 31 節—33 節>

**31** 「むちゃなことを言うな。あんな強い相手では、かなうわけがない。とても歯が立つものか。」偵察に行ったほかの者は大反対です

**32** 結局、ほとんどの者はあまり乗り気ではなかったため、彼らは人々に言いました。「国中に兵士がおり、住民はたくましい体格をしている。

**33** 昔の巨人の子孫アナク人もいるし、彼らと比べたら、私たちなど虫けら同然に見える。」

次に、信仰がある者たちは全イスラエルの民に「神様に信仰をもちなさい」と説きました。しかし、全イスラエルの民は信仰よりも巨人への恐れを選びました。全イスラエルの民は天地の主なる神様ではなく、ただの人間である自分たちの力に信仰をおきました。というのはイスラエル共同体全体または全部が、主なる神様と主なる神様が任命した指導者たちに反逆することを選んだのです。次にイスラエルの民は<民数記 14 章 1 節—2 節>で言いました。

<民数記 14 章 1 節—2 (3) 節>

**1** それを聞いた人々は、絶望的な声を上げて、夜通し泣き続けました。

**2・3** やがて嘆き声は、モーセとアロンへの痛烈な非難の声に変わりました。「なんてことだ。こんなことならエジプトで死んだほうがよかった。そんな国に行くくらいなら、この荒野で死んだほうがまだましだ。神様はおれたちを殺すつもりなんだ。そうなったら、妻や子は奴隷にされてしまう。さっさと引き返して、エジプトへ帰ろう。」

神様の正しい裁きにより、イスラエルの共同体全体が約束の地から荒野へと 40 年間放浪することになりました。その間に、荒野で生まれた者と信仰を守ったモーセ・カレブ・ヨシュアの 3 人を除いて、すべての者が死ぬでしょう。

私たちの罪の贖いとしてのイエス様の血の犠牲以来、神様との個人的な関係を持つことはすべてのクリスチャンに可能です。<ヨハネの手紙 I 1 章 3 節>に言われています。

<ヨハネの手紙 I 1 章 3 節>

私たちは実際に見聞きしたことを伝えているのです。それは、あなたがたが私たちと同じように、父なる神やそのひとり子イエス・キリストと交わることができる者となるためです。

私たちクリスチャンは、神様とそのような素晴らしい関係を持っています。

しかし、私たちの行く手に巨大な問題が立ちふさがる時、私たちは、あまりにも簡単に、神様の大切な約束への神様の忠実さを忘れてしまうでしょう。私たちは、神様がどれほど偉大で全能であられるかを忘れていきます！なぜ私たちは、自分達の力が神様の約束された勝利と関係があると考えるのでしょうか！

西暦 55 年頃、使徒パウロは、コリントのクリスチャンたちに、神様に反逆したイスラエルの民のような行動に気をつけなければならないと警告しました。

<コリント人への手紙 I 10 章 1 節—5 節>

**1** 愛する皆さん。昔、私たちの先祖が荒野でどんな経験をしたか、決して忘れてはなりません。神様は、雲を先導者として立てて、彼らを導きました。また、全員が安全に紅海を渡りきれるように導きました。

**2** これは、彼らの「バプテスマ」であったとみなしてよいでしょう。彼らは、モーセに従う者として——すなわち、指導者であるモーセにすべてを任せて——海と雲によってバプテスマを受けたのです。

3・4 さらに神様は奇跡によって、荒野で彼らに食べ物と飲み水をお与えになりました。彼らはキリストから水をいただいたのです。キリストは、信仰に新しい力を与える力強い岩として、いっしょにおられたのでした。

5 それにもかかわらず、大部分の者が神に従わなかったので、神様は、彼らを荒野で滅ぼされました。

ブルース牧師、なぜイスラエルの民はあれほど罪深い行いをしたのかとあなたは尋ねられるかもしれません。サウル王は物質的な富と名声への欲望に負けました。おそらくアガグ王に慈悲を与えたという自負心が、サウル王を神様に背かせたのかもしれません。しかし、神様は昔も今も、死による裁きを要求する権利を持っておられます。サウル王は神様に従わず反抗しました。もし神様がサウル王に裁きを下さなければ、サウル王がアガグ王に慈悲を与えたことは神様を喜ばせたことになります。旧約聖書の<ミカ書6章8節>に神様の預言者ミカは言いました。

<ミカ書6章8節>

神は望んでいることをあなたに告げました。 すなわち、えこひいきせず、公平で、 あわれみ深くあること、 また、謙遜にあなたの神と共に歩むことです。

アカンもまた、美しいものへの欲望に負けてしまいました！ヨシュア率いるすべてのイスラエルが、ヨルダン川の奇跡とエリコの城壁が崩れ落ちるのを見たことを思い出してください。また、神様の下にいたアカンの指導者は、神様の警告の言葉を与えました。

コリントの信徒と同じように、私たちクリスチャンでさえすべての罪深い人間にとっての問題は：

<1> 第1に、私たちは悪魔が私たちの聖なる神様に対して罪を犯すよう私たちを誘惑することを忘れていました。私たちは自分の感情だけだと思うかもしれませんが、私たち自身にある感情は正しいとか間違っているとかいうものではありません。たくさんの方が良く感じます。しかし、私たちは罪深い行為で良い感情を満足させるように惑わされるかもしれません。イエス様との親しい交わりを持たない私たちの感情は、私たちをサタンの影響に導くかもしれません。

<2> 第2に、パウロはコリントの信徒を戒めたり、正したりした後、神様の言葉として誘惑に対する新たな約束を与えています。

<コリント人への手紙 I 10章11節-13節>

11 先祖たちの身に起こったこれらのことは、同じことをくり返してはならないという私たちへの警告です。それが記録されたのは、世の終わりが近づいている今、私たちがそれを読んで教訓を学ぶためです。12 ですから、よく注意しなさい。「私は、そんなことは絶対にしないから大丈夫」などと思っている人がいれば、そういう人こそ注意しなければなりません。同じ罪を犯すかもしれないからです。

13 このことを覚えていてください。あなたがたの生活の中に入り込む誘惑は、別に新しいものでも、特別なものでもないということです。ほかにも多くの人たちが、あなたがたよりも先に、同じ問題にぶつかってきたのです。どんな誘惑にも抵抗するすべはあります。神様は決して、とてもたち打ちできないような誘惑や試練に会わせたりはなさいません。神様がそう約束されたのであり、その約束は必ず実行されるからです。神様は、あなたがたが誘惑や試練に忍耐強く立ち向かえるように、それから逃れる方法を教えてくださいます。

<3> 第3に<コリント人への手紙 I 10章12節>の警告です。

<コリント人への手紙 I 10章11節>

12 ですから、よく注意しなさい。「私は、そんなことは絶対にしないから大丈夫」などと思っている人がいれば、そういう人こそ注意しなければなりません。同じ罪を犯すかもしれないからです。

これは、(1) 神様の力ではなく、自分の力で立つ。または(2) 神の力：御言葉と聖霊なる神様に立つ。のどちらかを意味します。しかし、あなたがまだ天国にいないことを忘れていません！確信を持つことは良いことです。しかし、戦争のラッパがもはや鳴らされなくなるまで、私たちは十字架の兵士として戦う準備をしなければなりません。モーセ配下の12人のスパイは、イスラエル全土を反逆に導きました。モーセ配下の12人のスパイは敵の巨人に対して自分たちの力の度合いを見ていました。モーセ配下の12人のスパイはまた、彼らすべてに神様の愛を示された神様の強さも忘れていました。

<4>第4に、「信仰がある」ように見える人たちは、神様が彼らの人生に神様からの不可能と思える使命を許されるとき、神様が彼らをまだ愛しておられることをしばしば忘れていました。このヨシュア記からの小旅行では、ヨシュア記、そして聖書全体において神様が私たちにイエス様を与えてくださることの意味について、より多くの時間を費やすことをお許してください！

C. H. Spurgeon の『モーニング&イブニング』に、<イザヤ書 41 章 14 節>に基づくディボーションがあります。

<イザヤ書 41 章 14 節>

イスラエルよ、たとえ軽蔑されても恐れるな。 わたしは必ずあなたを助ける。 わたしは主、あなたを贖う者だ。 わたしはイスラエルの聖なる神だ。

Spurgeon は私たちクリスチャンが、神様が私たちが愛し、私たちが助けてくださるといふ神様の確かな約束をいかによく疑うかを知っていました。だから Spurgeon は、聖霊なる神様の真実をイエス様の口へ言葉として置いています。まるでイエス様が語っておられるかのように：

「何、あなたを助けない？なぜわたしは、わたしの血であなたを買ったのか。何？あなたを助けない？私はあなたのために死んだ。そしてもし私がより大きなことをしたなら、より小さなことをしないだろうか？あなたを助ける！それは私があなたのためにする最も些細なことである。わたしは神である栄光を捨て、あなたのために人となった。私はあなたのために命を捧げた。そしてもし私がこのようなことをしたのなら、私は今、必ずあなたを助ける。」

過去にも現在にもまたはこれからも私たちの神様、愛であられる神様に対して罪を犯して反抗する信仰を持つ者達は、Spurgeon によるこの献身的な「説教！」の要点を見逃しています。これは神様の愛の心のすべてを表現しています。それは御子イエス様を遣わされたことで完璧に示されました。まるでイエス様の口から出てきたかのような Spurgeon の言葉は真実です。神様がひとり子をお与えになったほどに私たちが愛して下さったことを、どうして私たちは忘れることができるでしょうか。イエス様は私たちのために喜んですべてを捨てて下さいました。イエス様はいつでもクリスチャンを助ける準備ができておられます。イエス様がすでに成して下さったことは、私たちが今必要としていることよりもはるかに大きいです。神様が私たちが愛しておられることをただ思い出すだけで、私たちが神様に対して罪を犯すことを防ぐ強力な保護となります！

では、ヨシュア記のアカンの裁きに戻りましょう。

**神様とのゆるぎない交わりのためには、罪を取り除かなければならない - 昔も今も**

<ヨシュア記 7 章 13 節>

**13** 立て。みなにこう告げよ。『各自、明日に備えて、自分を聖別しなさい。イスラエルの神である主がこう言われるからだ。だれかが主のものを盗んだ。この罪を取り除くまで、敵を破ることはできない。』

イエス様が十字架上でなされたことは、すべてイエス様を信じている者のために、罪を赦すだけでなく取り除くことでした。罪の除去は、アカンの罪に対してアカンに神様の死の裁きを命じる中でヨシュアがしなければなりませんでした。私たちは、イスラエル人の家族の長がアカンのように罪によって墮落した場合、その家族も当然同じだと考えます。とにかく地球の審判者である方は彼の家族も罪と決めました。

イエス様はご自身の血で私たちの罪人1人1人を洗ってくださいました。これによって、私たちは神様の家族の中で聖なる者または聖人となりました。しかし、地域教会のクリスチャンの罪はその教会家族に神様の力を制限します。私たちは、アカンのように目の欲に陥らないように、祈りの中で気をつけなければなりません。私たちはまた、私たちの力強い神様にあって「小さな信仰」に単に陥らないようにしなければなりません。

<ヨハネの手紙Ⅰ 2章15節—16節>の西暦90年頃、使徒ヨハネはクリスチャンに警告しました。

<ヨハネの手紙Ⅰ 2章15節—17節>

**15**この世と、この世のすべてのものに、心を奪われてはなりません。もし、それらを愛するなら、神を愛していないのです。

**16**すべての世に属するもの——罪の性質から起こる欲望、性的な欲望、暮らし向きの虚栄心——は、神から出たものではなく、みな、この世の生み出したものです。

**17**この世は、やがて滅び去ります。同時に、これらの禁じられた欲望も消滅します。しかし、常に神に従って歩む者は永遠に生きるのです。

私たちもこの警告に耳を傾け、祈る必要があります。私たちの現代社会は、電子機器、特に携帯電話のコンピューター画像に追いやられています。これらの画像は「目」を引き付けることを意味します。もちろん、すべてが罪深いわけではありませんが、私たちはそれらに細心の注意を払うよう教育されています。これは、罪に対する私たちの防御力が低下しているときには危険です。神様はご自分の子供たちに、罪にはならない多くの楽しみを、多くの視覚的な祝福とともに与えてくださいます。

## 罪と教会の家族

さて、OICの聖人の質問を思い出してください：1人の罪のために、なぜすべての兵士が断罪されるのですか？そして、なぜ神様はアカンの家族全員に死の裁きを下したのかという疑問です。私は、ユダヤ人の家庭は善悪両方に非常に信心深く父親に従うと言いました。しかし、その最良の答えは、新約聖書の中で使徒パウロのコリント教会での牧会的役割に見られます。使徒パウロは何年も前にこの教会を開拓、あるいはしっかりと立ち上げました。私たちは使徒パウロがコリントの教会における霊的な高慢を非難しなければならぬことを理解しています。聖書は高慢の危険性を教えています！これは自信ではなく、傲慢な態度です。さらに悪いのは、教会や霊的な高慢です。<コリント人への手紙Ⅰ 5章1節—2節>を読みます。

<コリント人への手紙Ⅰ 5章1節—2節>

**1**あなたがたの間に起こった不品行について、みながうわさをしています。それは、異教徒でもしないほどの不品行で、父の妻（おそらく継母のこと）と関係を持っている人が、教会にいるそうではありませんか。

**2**それでもなお、自分たちは信仰深いとしらを切るつもりですか。どうしてそのことで嘆き悲しみ、恥じないのですか。なぜその人を教会から除名しないのですか。

ここでは、罪を犯しているクリスチャンへの神様の恵みが際立っています。石打ちで死刑になるのとは異なり、罪を犯しているクリスチャンは教会から追放されることでへりくだらされます。この罰は、しばらく時間が経ってから使徒が、罪で教会から追放されたクリスチャンへ教会の再

入会を促したことで実を結びました。私たちはこれを<コリント人への手紙Ⅱ 2章7節>で見ます。

<コリント人への手紙Ⅱ 2章7節>

今はむしろ、赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、あまりの悲しみと絶望に打ちひしがれて、立ち直れなくなるかもしれません。

旧約聖書における神様の罪への対処に適用される重要なポイントは、<コリント人への手紙Ⅰ 5章6節-8節>に見られます。

<コリント人への手紙Ⅰ 5章6節-8節>

**6** あなたがたが、このようなことに目をつぶっているかと思うと、ぞっとします。たとえ一人でも、罪を犯すままに放任しておけば、やがてその影響が全員に及ぶことがわからないのですか。

**7** その人を、あなたがたの間から除きなさい。そうすれば、きよさを保てます。神の小羊であるキリストは、私たちのためにすでに殺されたのです。

**8** ですから、悪意や不正でいっぱい生活から、完全に離れなさい。しっかりキリストにつながり、クリスチャン生活において、力強く成長しようではありませんか。悪意や不正のまじったパンではなく、誠実と真実という純粋なパンを食べようではありませんか。

ここでパウロは、過越の祭りにまつわるユダヤ人の伝統を含め、以前の指示に頼っています。メッセージは明確です。神様の家族における悔い改めのない罪は、教会の他のメンバーを墮落させ始めます。これは肉の罪と闘っているクリスチャンではありません。それは、罪と闘わず、罪を誇ることであり、結果として神様の好意や恵みを曲げたり、捻じ曲げたりすることです。この恵みの時代の前に、アカンやサウル王と同じように、この邪悪な人物を取り除くことによって古い「(パンの)酵母」を取り除くことは、アカンにとっては死を意味し、サウル王にとっては追放を意味しました。同性愛は本当に罪ではないと信じる指導者を留まるのを許可したために、分裂し、弱体化したアメリカの2つの力強い教会を私は知っています！

ヨシュアにおけるこれらの困難な出来事について、私が質問に答えようとしたことが、役に立てれば幸いです。神様は、私たちが信仰に基づいて聖書を受け入れることを期待しておられますが、神様は私たちが神様の行動の意味を理解できるように成長することを望んでおられます。{これを繰り返させてください!}

## アカンの判決

<ヨシュア記7章16節-23節>を読みます。

**16** 翌朝早く、ヨシュアは主の前にイスラエルの各部族を進み出させました。すると、ユダ族に犯人がいることがわかりました。

**17** ついでユダの各氏族を進み出させると、ゼラフの氏族だとわかりました。今度は、家族に分かれて主の前に進み出させたところ、ザブディの家族ということになりました。

**18** ザブディ家の男子が一人ずつ連れ出されると、ついに、犯人はザブディの孫アカンであると判明したのです。

**19** ヨシュアはアカンにたどしました。「わが子よ。イスラエルの神に栄光を帰し、ほんとうのことを白状しなさい。さあ、何をしたか、包み隠さず話しなさい。」

**20** 「私はイスラエルの神に対して、取り返しのつかない罪を犯しました。

**21** ふと見ると、バビロン産の美しい外套と、金の延べ棒と、銀とがあったのです。銀は二百シェケル、金は五十シェケルの値打ちがあると思いました。すると、どうしようもなく欲しくなり、それらを自分の天幕(テント)の下に埋めたのです。銀はいちばん深い所に隠しました。」

**22** さっそく人をやって戦利品を捜させたところ、アカンの供述どおり、天幕の下に隠してあった盗品が掘り出され、さらに深い所からは銀が見つかりました。

**23** それらはすべてヨシュアのもとへ運ばれ、主の前に並べられました。

<ヨシュア記7章24節-25節>は、アカンの地上での生涯を終わらせます。

<ヨシュア記7章24節-25節>

**24** ヨシュアは全イスラエル人とともに、アカンをアコルの谷に連れて行きました。盗んだ銀、外套、金の延べ棒、それに息子、娘、牛、ろば、羊、天幕など、全財産もいっしょでした。

**25** ヨシュアはアカンに言い渡しました。「どうして、われわれにこんな災難を招くようなことをしでかしたのだ。今度は、主があなたに災難を下される。」人々は彼とその家族を石で打ち殺し、死体を焼き、」

アカンやその家族には、神様との死後の世界があったのでしょうか？ 私たちにはわかりません。ヨシュアが<ヨシュア記7章19節>で言った後、アカンとその家族の永遠の運命は、彼の告白によって変わったのだろうか？ 私たちは考えるかもしれません。

<ヨシュア記7章19節>

**19** ヨシュアはアカンにたどしました。「わが子よ。イスラエルの神に栄光を帰し、ほんとうのことを白状しなさい。さあ、何をしたか、包み隠さず話しなさい。」

聖書はそのことは言っていません。しかし、私の理解では、神様に選ばれた人々の1人にとって天国は可能なように思えます。聖書は、選ばれた民の1人が罪のために死によって処刑されたとき、その恵みの程度を明らかにしていませんでした。私はYESにかけられるでしょう。神様は見せしめに、選ばれた民であるイスラエルの聖なるパンから酵母を取り除かなければなりません。新約聖書の中で、パウロはコリントの人々に教会内の罪の酵母を取り除くことについて書きました。

### 巨人との戦いの失敗から私たちが学ぶこと

何よりもまず、私たちクリスチャンを愛してくださる私たちの神様ほど偉大で強力な方は他にいないしまた他にはありません。使徒パウロがテサロニケの教会に宛てて<テサロニケ人への手紙5章9節-11節>に書きました。

<テサロニケ人への手紙5章9節-11節>

**9** 神は、怒りを向けるために私たちをお選びになったのではなく、主イエス・キリストによって救うために選んでくださったのです。

**10** 主イエス・キリストの死は、〔主が再び来られた時、私たちの生死の状態にかかわらず〕私たちが永遠に主と共に生かすためでした。

**11** そういうわけですから、すでに実行しているように、互いに励まし合い、助け合いなさい。

私たちは互いに励まし合い、すべてのクリスチャンに神様が彼らを愛しておられることを思い出させることができます。神様は、すべてのイエス様を信じる者達がイエス様とともに永遠に生きるための力と計画を持っておられます。この事実が私たちを築き上げます。

### 巨人に勝利

モーセが送り出したイスラエル人のスパイたちのように、あなたが直面する巨人の大きさにあなたはだまされてはなりません。すべての巨人は霊的な世界からコントロールされています。アカンとサウル王の心の中にある欲望という罪の巨人が、命と名誉を捨てる扉を開きました。私たちは<コリント人への手紙I 10章13節>に誘惑の巨人たちに対する神様の約束があります。

<コリント人への手紙I 10章13節>

このことを覚えていてください。あなたがたの生活の中に入り込む誘惑は、別に新しいものでも、特別なものでもないということです。ほかにも多くの人たちが、あなたがたよりも先に、同じ問題にぶつかってきたのです。どんな誘惑にも抵抗するすべはあります。神様は決して、とてもたち打ちできないような誘惑や試練に会わせたりはなさいません。神様がそう約束されたのであり、

その約束は必ず実行されるからです。神様は、あなたがたが誘惑や試練に忍耐強く立ち向かえるように、それから逃れる方法を教えてくださいます。

神様は霊であられ、全能であられます。自分自身の力に頼らず、神様の力に頼ってください。私たちは、神様が御子イエス様と御自身に栄光をもたらすために、どのように私たちの目の前に巨人を置くことを許可されるかを読んでいます。彼らは私たちをつぶすためにそこにいるのではありません！＜イザヤ書 41 章 14 節＞についての C.H. Spurgeon のメッセージを思い出してください。….

＜イザヤ書 41 章 14 節＞

イスラエルよ、たとえ軽蔑されても恐れるな。わたしは必ずあなたを助ける。わたしは主、あなたを贖う者だ。わたしはイスラエルの聖なる神だ。

イエス様の唇にあるような Spurgeon の言葉は真実です。

「何、あなたを助けない？なぜわたしは、わたしの血であなたを買ったのか。何？あなたを助けない？私はあなたのために死んだ。そしてもし私がより大きなことをしたなら、より小さなことをしないだろうか？あなたを助ける！それは私があなたのためにする最も些細なことである。わたしは神である栄光を捨て、あなたのために人となった。私はあなたのために命を捧げた。そしてもし私がこのようなことをしたのなら、私は今、必ずあなたを助ける。」

また、私たちの人生に罪があると、これらの巨人に打ち勝つ力が弱まることも覚えていてください。そうです、神様は私たちの弱さに恵みを与えてくださいます。しかし神様は、私たちが完全な神様の子となるように、罪に打ち勝つように絶えず私たちを変えてくださいます。使徒ペテロが＜ペテロ手紙 I 1 章 5 節＞で聖徒たちを励ましているように。

＜ペテロ手紙 I 1 章 5 節＞

神の超自然的な力によって、あなたがたはまちがいなく守られ、やがて来る終わりの日に、用意されている救いをいただくのです。

そうです、神様の計画と設計は、戦う巨人がいなくなる永遠を見据えています。.

祈りましょう！